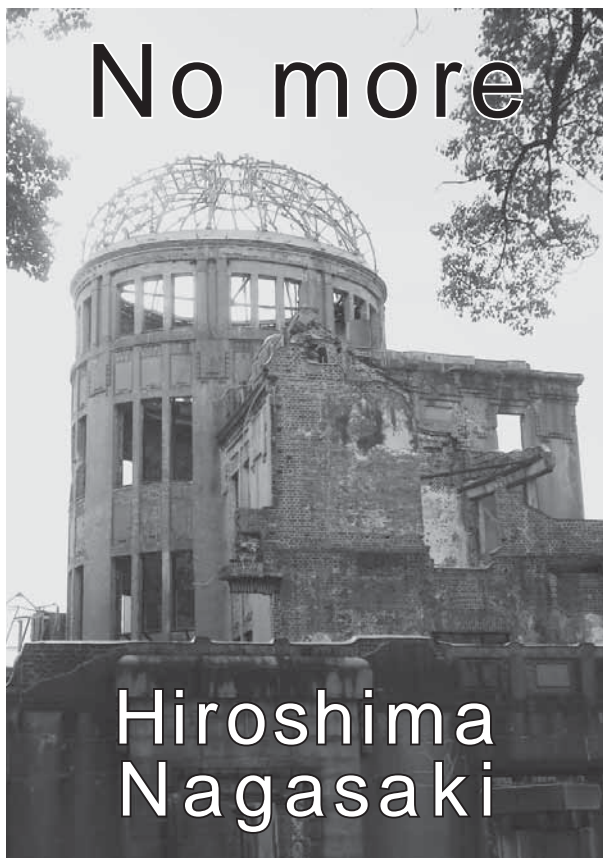


My-History

発行所 株式会社新風書房
 自費出版センター
 自分史友の会
 大阪市天王寺区東高津町5-17
 TEL 06-6768-4600
 東京都新宿区四谷2-11-2
 TEL 03-3359-3221
<http://www.shimpu.co.jp>

「ノーモア広島・長崎」

電子ブック化の英訳版に取り組む



広島原爆ドーム（平成22年11月・福山写す）

31編を選ぶ

『孫たちへの証言』23集までの応募総数は15,498編で、掲載は1,846編である。このうち原爆に関する証言として抽出したのは65編。これらの方に「ご案内と英訳版配信了承のお願い」を郵送した。返信は昨年10月20日で締め切ったが、転居先不明が13通、了承が31通、不可が1通、返信なしが20通であった。

《原爆編》『孫たちへの証言』から

核廃絶への動きは、オバマ大統領が「核なき世界」を目標に掲げたことで、機運の高まりがある。昨年の広島平和記念式には、いずれも核保有国である米英仏の大使ら代表が初めて参加。またノーベル平和賞受賞者による「平和賞サミット」が初めて広島で開催されるなど、核廃絶への動きは着実に進んでいる。

8月6日の平和記念公園に参列した米国代表ジョン・ルース駐日大使のコメントがなかったのは残念だが、「未来の世代のために、私たちは核兵器のない世界の実現を目指し、今後も協力していかなければならない」との談話を米大使館を通じて出

した。また1997年に平和賞を受賞した米国の平和活動家ジョディ・ウィリアムズ氏は「一人ひとりの声は小さくても、みんなで努力すれば核兵器はなくなる。対人地雷やクラスター爆弾でできたことが、核兵器でできないはずがない」と述べている。こうした言葉を信じ新風書房では、これまで出版した『孫たちへの証言』23集のなかから原爆に関する証言を抽出、英語版として電子ブック化し「ノーモア 広島・長崎」のタイトルでネット配信することにした。目下、翻訳をどうするかで交渉を進めている。

福山代表は「翻訳力の問題はあるが、勉強のためにも広島と長崎の大学生に一人1編ずつお願いし、大学教授の監修を得たうえ6月ごろには完成したい」と語っている。

玉音放送と学童疎開



ピースおおさか 終戦の日「平和祈念事業」に協力 再生テープを流し福山代表が解説

終戦から65年目の8月15日、ピースおおさか主催の「終戦の日平和祈念事業」に「国民学校と学童疎開を考える会」が協力し、『玉音放送と学童疎開』を催した。第1部の「玉音放送&講演」で、考える会会員の福山琢磨さんが、65年前の玉音放送を流した。参加者約20

0人はルビツきの玉音詔書を目で追いながら、真剣に耳を傾けた。その後、放送を阻止する行動を起こした軍部のクーデター事件について解説した。全世界

に電波を発信したが、電波状況が悪くて聞き取れず、一時混乱したが、午後には新聞も配達され降伏したことは周知された。

第2部の、映画上映&トーク」では、映画「ボクちゃん」の戦場」について原作者で同会会員の奥田継夫さんが、自分の体験を交えながら語った後、映画の上映を行った。

アンケートから拾った。雑音なしの玉音放送を初めから最後まできちつと聞いたのは初めてで陛下の心中が察せられ

た。原爆を2個も落とされ10数万人が亡くなっているこの場に及んで戦争継続とは狂気の沙汰であられる。上映前に原作者の話の聞いたのはよかったです。

親を思う寂しさやひもじさは、忘れられません。いじめもあり、言葉がうまく通じなかったのは辛かったです。悪い面ばかりではなくよい面もありました。先生の暖かな真情にふれ、新しい友もでき、自立心も育ったように思います。でも戦争はやっぱりありません。

朝日新聞が「被爆の記憶」ホームページ開設

まず890人「ナマの体験」をネットで配信

朝日新聞は、被爆者がつづった手記を収録するサイト「広島・長崎の記憶」被爆者がつづったメッセージ」(<http://www.asahi.com/nibakusha/>)を昨年11月17日正午に開設すると同日の朝刊で発表した。

「広島・長崎の記憶」は日本被団協や広島・長崎両大学の協力で2005年に実施した「被爆60年アンケート」で得られたメッセージを元に、まず890人分を公開するもの。最終では1600人になるとしている。本サイトは「アサヒ・コム」の中にあり、被爆

場所や状況の分類もしている。評論家の立花隆氏は「戦争の記憶を残しておくことは今、喫緊の急務だ。被爆者や戦争体験者は、日々確実に亡くなっている。今記録しておかないと、彼らのナマの記憶や体験は消えてしまう」と述べている。

同社では翻訳に協力できる個人または団体を募っている。06 6231 0131。

戦中の写真を

企業向けに公開

朝日新聞の従軍記者、カメラマンが撮った戦中の写真を「朝日新聞フォトアーカイブ」で、法人・企業向けに公開している。画像を検索、注文でき電子データをダウンロードできる。

03 5541 8138。

各地の話題

盛岡

「孫たちへの手紙」第10集を発行

福島

NHKが「おはよう日本」で大々的に放映
岩手自分史発行センターが編集を行う



『孫たちへの手紙』も偶然10集を数えた。記念すべき戦争体験集であり貴重な文集として地元のマスコミ各社が大きく報道したこともあって、8月18日のNHK総合テレビ「おはよう日本」



『人生春秋』第21号発行 福島・自分史友の会の会員で賑わったが高齢化のせい

「発足23周年記念文集」とある。発足当時は多く



いで会員も十数名とさびしいが、しかし本間登美さんのお元氣そうなお顔があるのは嬉しい。内容も力作ぞろいである。特に斉藤敬三さんの「自分史出版までのあれこれ」は、思い悩んだことが書かれていて示唆に富む。表紙のデザイン・書き方の工夫・区切り符号・資料作成・

で、7時45分から10分間「おはよういわて・平和を願う『孫たちへの手紙』」として放映された。ビデオ撮影は8月初めから行われ、編集会議のセット、インタビュー対象者の選定など、総ての設定をセンター代表の佐藤博蔵社長が行った。テレビ放送の内容は機関紙の号外で詳しく報じている。

この出版企画の提案は佐藤社

石川

『自分史・虹の中へ』54・55号
示唆に富んだ文なので、重田重守理事長のあとがき」をそのまま紹介する。《今回も原稿募集に32編が寄せられた。それ



せられた。それが思い出のこめられた自分の半生の一こ

肖像権などどうクリアしたかが参考になる。

他は「私の古寺巡礼」川端外志夫 「遥かなるノスタルジア」黒津弘 「孫への贈り物」小武山弘之 「自分らしく生きる」とは「羽根田サツ」「十三回忌を迎え夫を想う」蛭田新子「イタリア縦断周遊の旅」本間登美など。
A5判86頁、024 53
4 7135 (クサカ印刷)。

長から奥老人クラブ連合会事務局へ出され、承認を得て「岩手自分史発行センター」が実務を請け負っている。それだけに育ての親である佐藤社長は感慨深いものがある。佐藤社長は福山代表が「孫たちへの証言」で実績を築いているので相談されたという。そのとき提案されたのが当時「NHK文化センター」の習作集に使っていた「孫たち

への手紙」のタイトルであった。「孫に手紙を書くようなつもりで自分史を書きましょう」というのが命名のねらいで、現在も習作集のタイトルに使われているとのこと。「東北でも同じタイトルが活躍していることは嬉しい」と福山代表。
NHK以外からも取材の依頼や書籍購入の電話で、嬉しい悲鳴だったそつだ。

まーこまをつづっている。少年期の手記、重馬の話など懐かしく、当時が色濃く浮かび上がってくる。『虹の中へ』は発行以来20年になり、54号を数えた。よく続けられたものだという思いがする。寄稿者の年

齢も高く、さまざまな人生が映し出されている。文章も洗練されて読みやすいが、いまひとつ物足りない感じがしてならない。悔しき、無念さ、嬉しさなどが率直に語られ、原稿を手にしてハッと息をのむものが望ましい。『自分史』なのだから。《

高知

永野和宏社長の惜しまれる旅立ち

高知市の自分史代理店として活躍され、現在地に新社屋を建設されるなど発展の途上にあるながら「飛鳥・永野和宏社長」が8月16日惜しくも急逝された。残された功績は地方文化の観点からも実に大きい。



始めは「四国写真」として印刷全般の仕事がされていたが、なかでも出版に力を入れられ、自分史のノウハウも取得、「自分史作り方教室」を毎年開催し、自費出版の客層を根気強く開拓し

てこられた。自費出版で最も手間のかかる「編集」にしても労をいとわず、著者と共に「後世に残る本作り」を目指された。そのうちの「酔っ払いの父に捧ぐ」は読売新聞の1面コラム「編集手帳」にも紹介され、テレビドラマにまでなり全国版となった。やがて社屋を市の中心部へ新築され、社名を「飛鳥」として飛躍されていた。後任として息子さんの正将氏が社長に就任された。若い力に期待しエールを送りたい。

「あれから65年」目立ったメディアの戦争特集

敗戦から65年目の昨年8月、各メディアの戦争特集が目立った。気づいたものだけを拾ってみた。いずれも連載。(大阪本社発行分)

朝日新聞

「核なき世界へ」(7月29日) 1千人の被爆者を対象にアンケートした。05年以降に体験を初めて家族以外に話したと答えた人が約3割にのぼり、「語り伝えが核兵器を使わせられない力になる」とした人は8割近くになり、語ることに踏み切る人が相次いでいる実態が明らかにな

った。「私たちの戦争2010年夏」(8月5日夕刊) 「追想 今、伝えたい」(8月15日) 5回(戦後65年)「今だからこそ平和の素晴らしさを伝えたい」。そんな思いを抱く府内の戦争体験者に話を聞いた。南出記者が、孫たちへの証言』のなかから。(写真) 「65年目の遺言」(8月12日) 5回(戦争で家族、基地建設で故郷を奪われた沖縄の人々、フィリピンの飢饉地獄から生還した兵士の話、女の悲劇、引揚後など)。「65年目の遺言」(続編 12月5日) 6回(終戦から65年がたち、過酷な体験を聞ける機会が刻々と少なくなっている)。

朝日新聞「追想・今、伝えたい」第1回(8月15日)

追想、命を受けたら人を許せますか

今、伝えたい

心の中で何度も「許せ」

捕虜にあの世でわびたい

太平洋戦争が開戦した12月8日を前に、戦争の実像を記録するシリーズを夏に続き始める。(前書きより) 「暮らし・あのとき」(8月11日) 4回(生活面で戦時下や終戦直後の暮らしぶり)を募ったところ約4000通の便りが寄せられ、食生活・衣服歌・遊び・番外編に分けて紹介した。「声 語り継ぐ戦争」は月1回(3火曜)の年間企画。

読売新聞

「記憶 ヒロシマ65年」(8月1日) 被爆65年目に当たり、被爆者に面談調査を実施、心と体に刻まれた記憶をたどった。「シベリア抑留 終わらない悲劇」(8月8日) 6回(昨年6月シベリア抑留者に給付金支給特別措置法が成立、戦後補償に一つの区切りがついた。しかし今なお抑留の苦しみを引きずる人、遺骨を捜し求める人々は少なくない。それらの人を追っている)。

毎日新聞

「悲憤の島から 第2部 コザ孤児院」(8月11日) 5回(

65年前の沖縄戦で家族を失った孤児たちが歩んできた道のりは、沖縄の悲しみと怒りの歴史と重なる。その人生を追った。

産経新聞

11月7日) 「戦後65年 伝えたい記憶」(8月5日) 6回(風化が進む戦争の記憶を次の世代に伝えるため、同社が募集した戦地での体験談などを紹介した。「引き揚げ 65年目の夏」(8月8日) 7回(終戦時、約330万人の軍人軍属、660万人の民間人が国外に滞在していた。その貴重な証言をつづる。「眠れぬ墓碑 第2部 激戦の南島」(8月14日) 5回) 苛烈な戦いであまたの命が奪われた東部二ユーギニア戦。消えることのない無念を抱え、鎮魂を祈り続ける関係者の心情を見つめた。

埼玉県の中学 夏休みの宿題に 祖父母から「戦争体験の聞き取り」

戦争体験の聞き取りの宿題を出したのは、埼玉県朝霞市立朝霞第2中学の宮崎敦子先生(53)。学校の屋上から米軍のヘリポートが見渡せた。戦時中は軍事施設があり、現在も自衛隊の施設で歴史を肌で感じさせる町。宮崎先生は、亡き父が5年間 中国南部で従軍していたの

に、照れ臭くて体験を聞けなかった後悔がある。

「宿題だから手伝って」という形なら聞きやすいのではと思った。祖父母の年齢は70代前半で従軍体験はないが、空襲や学童疎開が主体。孫の宿題に喜んで協力してくれた。(朝日新聞・7・24)

福山代表の講座

- 《玉音放送とクワーター》 天風会真人塾 八尾校成会 河北中学喜寿同窓会 サンゆ会 ピースおおさか平和記念館ほか。
- 《自分史作りのすすめ》 香芝ライオンズクラブ 研9会ほか。
- 《自分史&社史の作り方》 あきんど塾 同10期会 校成会ほか。

第13回日本自費出版文化賞決まる

日本グラフィックサービズ工業会が主催し日本出版ネットワークが主管する催し。入賞は次のとおり。
 大賞「対馬国志・全3巻」永留久恵(長崎)
 地域文化部門賞「ふるさと子供グラフィティ」原賀隆一(熊本)

個人史部門賞「天皇陛下と大福餅」秋葉洋(東京)
 小説・エッセイ部門賞「三十六年後の買物」中村秀真(埼玉)
 詩歌部門賞「歌集 菜殻火」(なごらび) 佐野恭子(北九州)
 研究評論部門賞「満洲開拓民悲史」高橋健男(新潟)

グラフィック部門賞「豚と共に」山地としる(香川)
 特別賞「じよんのびよもやま日記」小林康生 新潟「奈良朱し」河井佳代子 奈良「人事労務管理事典」山岸俊正 東京「林十江の生涯」小林富雄(茨城)
 なお第14回の作品募集は3月31日まで。 03 5623 5411。

第34回の歴史「鳥取県出版文化賞」決まる

地方の出版文化賞の中でも伝統を誇る「鳥取県出版文化賞」は34回の歴史を持つ。新日本海新聞社が主催し鳥取県印刷工業組合が協賛、審査委員長は鳥取短期大学非常勤講師の上田京子氏が務めている。

「出版文化賞」は、筋肉の動かなくなる難病と闘い2年前に

鳥取県で「地方出版功労賞」選ぶ

人口最少の鳥取県が地方で出版される本にエールを送りつづけて23回目を数える。「ブックイン」とつと(米子・今井書店)が、全国から集まった本を展示し、見学に訪れた人が投票した上位作品のなかから審査委員が入選作を選ぶユニークな試み。ただし鳥取県の出版物は対象外。22年の功労賞は「鯨取り絵物語」中園成生、安永浩著。奨励賞は「有珠山 火の山」と

「自分史」使い若手の研修行っ

立花エレテックのユニークな試み

電子機器・半導体商社の立花エレテック(大阪市西区西本町)は、若手社員の研修にそれぞれに書かせた自分史を活用するユニークな試みを行った。同社ではここ数年3年以内で退職する新入社員が目立つため、入社4年目前後の社員を中心に8月27日から2日間研修会を開いた。自分史を書かせることで自己分析をさせ、進路の選択に生かす

大刀洗平和記念館が図録出版

戦時中多くの特攻隊などが飛び立ったことを継承しようと福岡県筑前町立大刀洗平和記念館が新しい常設展示案内の図録を製作した。大正8年完

成、東洋一といわれ西日本における陸軍の航空拠点とされた。内容はその歴史「大航空時代の始まり」から戦時中に至り、幻の戦闘機・震電、開発物語など、異彩を放った福岡の航空機製造会社のことなど、写真入りで分りやすく解説している。A4判 82頁 1000円。0946 23 1227。



色川先生の「自分史」完結

最終編「昭和へのレクイエム」出版

歴史家であり、昭和50年ある昭和史「自分史の試み」を出版、自分史の火付け役となったことで知られる色川大吉氏(85)が、「昭和へのレクイエム 自分史最終編」を岩波書店から出版された。第2作の「廃墟に立つ」カ

チューシャの青春『若者が主役だったころ』と続き今回の5作で最終編となった。

「自分史は一般の歴史書を書くより疲れます。自分を取り巻いていた状況が、自己の内面に深く食い込んだ部分を核にしないと本当の自分史にならない(朝日新聞夕刊11・1)

袋井の地震の絵が

同級生の自伝に

西東京市の市川和子さんから「今年4月に旭日大綬章を受けられた柳澤伯夫さんは小学校の同級です。記念出版をするので、幼少時代のところを、東南海地震のことを書いているのですが、私の絵を使わせてほしい」とのことで驚きました。彼は小淵・森・小泉・安倍内閣の大蔵大臣の上の人です。とても私の絵などとお断りしたので

が、幼児期の資料が少ないので是非といわれ承りました。これは市川さんが平成21年8月に出版された「東南海地震・8歳の記憶」にある袋井国民学校と町の倒壊した様子を書かれた画集のことである。「送られてきた本をみてびっくり。B5判の大判サイズで600ページ(厚さは約6センチ)重さ2.2キログラムある大作です。開いて見ますと第1章の「地震と啄木」のところに掲載されており名譽なことだと感謝しています。なお市川さんの「8歳の記憶」は、このほど発行された「袋井史防災史」に全ページがカラーで掲載されており、出版記念式にも袋井市から招待された。

大阪日日新聞・人気コラムの著者
「溇標」サロン、初の会合



大阪日日新聞の人気コラム「溇標」の筆者が11月18日土曜のたかつガーデンに集いサロン風の交流会を催した。畑山編集局長「写真」から「こんなサロンを作っていたら感謝です。交流の輪を広げていただきたい」とあいさつ。担当の平瀬記者から参加者のコラムのコピーが配られ、和やかな会となった。事務局を担当した福山琢磨氏から「次回は読者も交えた会にしたい」との言葉で散会した。

古い写真をデジタル化 図書館と市民が連携して古い写真をデジタル化し、地域の記録として後世に残す取り組みが始まっている。

新潟県十日町市では写真館が明治時代から撮り貯めてきた写真を図書館に寄贈、整理作業が始まっている。

大阪の豊中市や箕面市では家庭に残っている古い写真を募り、デジタル化して蓄積、ネットで一部の公開を始めている。

(日経新聞22・12・11)

「遠矢」俳句会
20周年祝う

関東・関西で活躍中の檜紀代主宰の「遠矢俳句会」が20周年



を祝う記念祝賀大会を昨年10月29日、東京帝国ホテルで催した。会員の迎える中、多数の来賓が入場、盛大な宴となった。

『小さな自分史
思いでつづり』
第5号 ぐんま自分史の会

新井とよ子会長のもと石川光先生の指導を得て書き綴った作品を1冊にまとめた。南部アフリカ旅行 江原和子 4月29日と私 高橋芳江 てくてく歩き 私のお遍路 樋澤文夫 初めての就職 高橋友七などバラエティーに富む。A5判138頁。027025 4388。

ヒューマン・リソース研究所設立20周年祝い

「鈴木民二のお返し劇場」催す



「感動・感謝・喜び」をテーマに、12月12日リーガロイヤルホテル堺で「鈴木民二のお返し劇場」が催された。美空ひばりの歌を流し、ふるさと白石の白にこだわった料理など、鈴木所長の心のこもった演出に百余名の参加者も共鳴の拍手を送った。

『伝えたいあの戦争』
山梨平和ミュージアム編

戦後60年に1冊目を「山梨ふるさと文庫」から出しており、65年目に2冊目を出した。寄せられた70編から37編を選び掲載した。B6判260頁、1575円。



副題に「滋賀の空襲を追って」とある。空襲被害の実態と、学童疎開、挺身隊、勤労動員、捕虜収容所など、人々の記憶から忘れ去られようとしている銃後の真実を記録にとどめている。B6判224頁、1890円。サンライズ出版。



『湖国に模擬原爆が落ちた日』 水谷孝信著

055 235 5659。このほか、山梨ふるさと文庫では「知っておきたいあの戦争 体験記と資料に見る15年戦争」浅川保、『予科練と特攻隊 海軍甲種飛行予科練習生14期の回想』わが町の太平洋戦争 山梨県大月市の記録 鈴木美良著などを出している。

『ヒロシマ・ナガサキ 八月のあの日』 寝屋川市 広長友の会編

大阪寝屋川市被爆者からのメッセージである。「会員の高齢化に伴い記録にとどめることにした」と岡野会長の言葉がある。78編の原稿集めは容易ではない。256頁、1680円。072824 1181。

い。「あどがき」に「この本は会員が血涙を絞って書き上げた珠玉の宝物です。核兵器廃絶の悲願を込めて世に送ります」とある。会員の「分身」となると羽ばたき、大きな成果を上げることが祈ってやまない。A5判256頁、1680円。072824 1181。

新風書房出版ニュース

大阪 06-6768-4600 東京 03-3359-3221

《ホームページ》<http://www.shimpu.co.jp>

《Eメール》info@shimpu.co.jp

『恵真理号に夢を乗せて！』

上田さんの50ccバイク独り旅



A5判 144頁 840円

著者は大手の講師派遣会社オーナーである。創業25年を機に会社を売却し、バイクの免許を取って日本一周の旅に出た。娘や友と携帯でメールのやり取りをしながらである。それをそのままにし、御礼の報告にしたのだからたまらない。その発想はどこから生まれたのだろう。新老人のユニークな生き方としか言いようがない。うらやましい限りだ。

「大阪春秋」

《139》(夏号)、『緒方洪庵生誕200年』を特集 特別寄稿

梅溪昇「緒方洪庵の生涯 迷の時代を生きる」 200年記念インタビュー 漫画家 村上

もとか 適塾のオランダ語教育

緒方洪庵と福沢諭吉 大阪の除痘館 天然痘(痘瘡)と除痘館関係略年表 洪庵の門下生 愛妻・八重 洪庵年譜 付録

「緒方洪庵ゆかりの地を訪ねる」



《140》(秋号)、『大阪と博覧会』を特集 博覧会の始まりと、大阪の博覧会』 大阪と内国勧業博覧会、明治の万博開催へ、大阪の成立と大々大記念博覧会 上海万博のなかの大阪 堺と博覧会 巻頭随想「ベルギーの人々」 山田政弥 対談「白井達郎VS橋爪紳也 おおさかの女 関西大学航空部OB会会長・熊川夏代さん」 付録 第5回内国勧業博覧会会場鳥瞰写真・案内図・平面図

「大阪春秋」(秋号)、『大阪と博覧会』を特集 博覧会の始まりと、大阪の博覧会』 大阪と内国勧業博覧会、明治の万博開催へ、大阪の成立と大々大記念博覧会 上海万博のなかの大阪 堺と博覧会 巻頭随想「ベルギーの人々」 山田政弥 対談「白井達郎VS橋爪紳也 おおさかの女 関西大学航空部OB会会長・熊川夏代さん」 付録 第5回内国勧業博覧会会場鳥瞰写真・案内図・平面図

『エッセイ集 つれづれきま』、『短編2編』

倉田昌治さん2冊を同時出版

前書きに「生来の怠け者で日記はつけない。その代わり思いついたら書きとめる。私の足跡である」と。熊本高校、住友の経営理念などエッセイ風自分史



でもある。「短編」は「古事記物語(神代編)」と「俳聖芭蕉の最期」。

古事記を読んだのは2002年のこと。その感動を伝えたくて原稿用紙に向かった。俳聖芭蕉は「花屋日記」を元に短編小説に仕立てた。発病と病状が切迫するさまは手に汗する緊迫感が漂う。A5判箱入り、非売品。

『自分史 傘寿つれづれ』

「5人の孫が次々生まれ私の背中が一番活用された」。

まだベビーカーのなかった時代を書いている。生活の一場面に過ぎないが、そこから時代が

『偲び草』

清水久子 天理教兵庫大教会長の清水與一氏が母清水久子さんの追悼集を上梓された。

大正15年、師東大教会2代会長紺谷金彦、しげの長女として誕生、姫路高女卒、昭和21年清水國男(22年兵神大教会長)と結婚、6男7女を授かる。29年兵神大教会芳学園初代園長

偲び草

町田の小長谷さんが2冊目出版

浮かぶ。身辺の暮らしの一部分をうまく切り取って文章にした。エッセイの醍醐味である。

「老いの戸惑い」「老人力から学ぶ」「戦中派は強い」「最後の

婦人会兵神支部長、53年世界連邦平和の塔除幕式、神戸支部婦人の役員、天理託児所所長などの要職を歴任された。

『自分史・絆』5冊に

岩国さん、手書きで

恵比寿自分史教室で学ぶ岩国三和子さんが、自分史を「絆」のタイトルで5冊にまとめた。手作りのぬくもりを伝えようと総て筆で手書きをした。親しい友に配ったところ、そんな人生とは知らなかった。もっと書いて」と励まされ、5冊になった。

「2009年4月5日、南箱

同期会」などが並ぶ。

「孫やひ孫の明るい顔を見てみると、今日の豊かさがどうして得られたかを文章にしてしっかり書き残しておいてやらなければと思ったのです。活字にしておけば何年後にひ孫もきくと読んでくれるにちがいないありません。次は米寿を過ぎし書き続けます。これが私に与えられた使命だと考えて」



東京恵比寿の自分史教室に通い腕を磨く。母から娘へに継ぐ2冊目、B6判124頁、1575円。

根ダイヤランド別荘の桜が私を待つて居た。足腰弱り東京から3時間かけて会いに来た。幹は太く逞しく苔をぎっしりつけて待つて居た。」と老木に寄せる思い出からドラマが始まる。出征前に結婚した相手は帰って来なかった。でも心温かな人めぐり合う。懸命に生きたから今がある自分史。

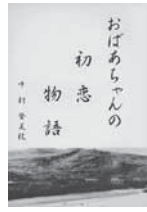


出版だより

本の定価は税込です。

『おばあちゃんの初恋物語』
中村登美枝著 慶興からの引揚
げを書いた自分史が作家山田太
一氏の目にとまり、『二人の長い
影』として脚本化され公演が続
いている。今回は6年前の『い
のち』に次ぐ2冊目である。

『満蒙開拓団の崩壊』上小柴
あき子著 長野県佐久大日向に
生まれ、昭和13年7月渡満、鈴
蘭四家房に入植した。満州国の
建国や移民の歴史にも触れてい
る。開拓団の存在は敗戦で一変
9月9日、村は暴徒に蹂躪され



おばあちゃんの
初恋
物語
4. 886
27 25
品 04
頁、非売
A5判190
べてを書き下ろした。A5判190
分も含め、遺言書のもりです
べてを書き下ろした。



満蒙開拓団
の崩壊
の別れ
王さんの
好意など
涙がにじ
む。逃避行で祖母を失い、父も
逝き、母と姉の3人で引揚げる
B6判174頁、新生出版。

『比島の夢 消えない足跡』
田中陽男著 昭和19年6月臨時
召集で威第17634部隊、通
称独立自動車第330中隊の一
員となる。広島で乗船し南方へ
向かう。魔のバシー海峡では僚
船が沈没するのを目前にするも
マニラ湾にたどり着く。ケソン
からマッキンレイ兵營(桜兵營)
に駐屯。弾薬輸送など、何度も
死線を体験する。よく命があつ
たと思う。

戦友の鎮魂のため書き残した
B6判108頁、非売品。



美郷文芸
16号
桐山健一
さんは横
浜からで
ある。会
員の末永

『美郷文芸』16号

町名を冠した文芸誌は良
い。身辺のことが多く文章を
読者と共有できるからだ。町
の人だけでなく、都会地から
投稿される人もある。作家の
桐山健一
さんは横
浜からで
ある。会
員の末永
タカさんが「宮日本文芸賞(歌
壇)」を受賞された明い話
題もある。巻頭は「美郷町長
さん永年ありがとうございま
した」という田原ヤエ子さん
の一文である。一緒に掲載し
てある地元新聞の切り抜き
に「さよなら全国最多当選首
長」の見出しがある。A5判
106頁700円。美郷文芸
の会0928 66 3600。



カステラ
長崎物語
マ風に仕
目には
場面な
ど、ドラ
産の憂き
に遭う
目には
場面な
ど、ドラ
マ風に仕

『カステラ長崎物語』
長崎で「扇正軒」として産
声をあげ90周年を記念して編
まれた社史である。単なる業
績の推移や製品開発の取り組
みなどではなく、予期せぬ倒
産の憂き
に遭う
目には
場面な
ど、ドラ
マ風に仕

立てられた物語で、ぐいぐい
引き込まれる迫力を秘めてい
る。日経の辣腕記者脇本祐一
氏が筆を執り、デザイナーは社
長夫人であり、相談役荒木一
郎氏の娘志華乃さんが個性を
発揮した。荒木貴史社長の挨拶文がユニークで、後継者としての信頼を得ている。読み
心えのある1冊だ。
B6判296頁・非売品。

『追懐の情』巻口弘編集
サ
ブタイトルに「満州柏崎村に生
きた巻口シズ追悼録」とある。
平成19年6月、母の一周忌に書
き残されていた手記を息子さん
がまとめた。

シズは29歳の17年夏、夫宋一
と渡満、開拓村に入植する。夫
は召集され敗戦の混乱、逃避中
に子供2人を失い残された4人
と彷徨うち、中国人に助けられ
る。王氏との間に3人の子をも
うけ、その子達も成長、結婚し
たので昭和50年62歳で33年ぶりに
里帰りがかなう。子供たちも
呼び寄せた。B6判58頁、非売品。

『遠い日』馬場勝行著 昭和
5年、若手県柴並の生まれ。盛
岡一高、早稲田を経て岩手日報
へ。東京編集部長、本社報道部



長、論説
委員、事
業局長を
歴任。退
職後の現



勤務した。
B6判180
頁、12
60円、
文芸社。

『わたしの沖縄戦』国吉司
子著 昭和2年宮古島城辺新城
で生まれる。戦中疎開せず沖
縄に巻き込まれる。婿養子とな
り、実母と父も失い実兄朝祐の
戦死など家系問題になるも力強
く生きる。平成6年教育学博士
号取得、15年全日本川柳協会常
任理事、20年同功労賞受賞、「日
本ユネスコクラブ」主宰。沖縄
戦の生き字引的存在。A5判114
頁、非売品。那覇・文進印刷。



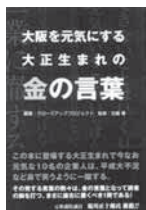
れる恐
怖」など。
A5判120
頁、10
00円。



K一局し
かなかつ
た日本の
放送界に
民間放送
が誕生し参入してすでに57年にな
る。その民放の草創期、そこ
には何があったのか。毎日放送
に居合わせた著者が、躍動して
いた民放初期の内部を描く。B
6判304頁、1890円、清流出版

在も多くの要職にある。
項目を拾うと、つらかつた学
徒動員、青春の陸上競技、コラ
ム修行の日々、一人の政治家と
労働問題、ロータリークラブ、
町内会のお手伝い など。B5
判176頁、博光出版。

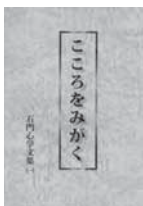
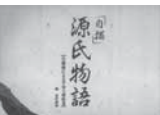
『自分の人生の窓から見た
もの』堀江砂乃著 大正半ば石
川県能登で生まれるが父の勤務
で2歳のとき釜山に移住する。
小学6年5月帰国、昭和11年通
信省東京市外局勤務、16年11月
華北電信電話股份有限公司に派
遣、通信書記補。19年北支派遣
陸軍最高方面軍司令部副幹部に
移る。20年12月、司令部に移籍
女性で初めて陸軍技手に任官し
ている。残務処理に当たり21年
3月帰国、小学校や養護学校に



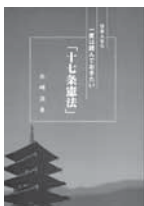
『おおさかを元気にする大正生まれの金の言葉』帯には、この本に登場する大正生まれで今なお元氣な10名の企業人は、平成大不況など鼻で笑うように一蹴する。その発する言葉の数々は、金の言葉となって読者の胸を打つ」とある。登場するのは、大阪マルビルルの吉本晴彦氏、美々卯の薩摩卯一氏、金剛組の金剛利隆氏、花外樓の徳光憲氏、ヒグチ産業の樋口俊夫氏などで、味わい深い「金の言葉」が並ぶ。編者はクローズアッププロジェクトの関谷一雄・小林武則、監修は左藤章（元衆議院議員）発行は星湖舎、B6判316頁、1680円。

『白描 源氏物語』安沢阿弥画 源氏物語は平安時代中期に成立した長編王朝口曼であり、世界最初の長編小説とも言われる。これを大阪の富士精版印刷株式が創業60周年の記念出版として製作した。原画は日本美術院の安沢阿弥画伯が、文章はコピーライター出身で同社企画課の小金陽介氏、挿絵は宮崎久美子さん、アートディレクターは中村創一氏が担当、1年がかりで取り組まれた。白描画は、水墨画とは異なり、墨の筆線だけを主体として描かれた絵画のこと。A4判128頁、非売品、0663911181。

『白描 源氏物語』安沢阿弥画 源氏物語は平安時代中期に成立した長編王朝口曼であり、世界最初の長編小説とも言われる。これを大阪の富士精版印刷株式が創業60周年の記念出版として製作した。原画は日本美術院の安沢阿弥画伯が、文章はコピーライター出身で同社企画課の小金陽介氏、挿絵は宮崎久美子さん、アートディレクターは中村創一氏が担当、1年がかりで取り組まれた。白描画は、水墨画とは異なり、墨の筆線だけを主体として描かれた絵画のこと。A4判128頁、非売品、0663911181。



『こころをみかく』山岡純平 会員の文章が並ぶ。入門書であり普及書でもある。A5判148頁、06498916899（エール学園内）。日本人なら一度は読んでおきたい17条憲法。永崎淡泉著「憲法17条」は国家理想で高い政治思想とされてきたが、その背景には人間の実相を凝視した深い呻吟が籠



『こころをみかく』山岡純平 会員の文章が並ぶ。入門書であり普及書でもある。A5判148頁、06498916899（エール学園内）。日本人なら一度は読んでおきたい17条憲法。永崎淡泉著「憲法17条」は国家理想で高い政治思想とされてきたが、その背景には人間の実相を凝視した深い呻吟が籠



『オリオンの墓』永井瑞江 著 副題に「あの冬、満洲に消えた難民孤児たち」とある。ソ連軍が侵攻後満洲での1年間の日本人死者は24万5千人といわれる

『オリオンの墓』永井瑞江 著 副題に「あの冬、満洲に消えた難民孤児たち」とある。ソ連軍が侵攻後満洲での1年間の日本人死者は24万5千人といわれる

『大阪オーラ』三島祐一著 都会には都会のオーラがある。大阪は不思議な不思議なオーラがある。大阪に注目して日本を考え直す。かつて「天下の台所」と呼ばれながらも、幕府のもとに不遇の地位に甘んじてきた」と指摘する。B6判216頁、15000円、0268382767。



『大阪オーラ』三島祐一著 都会には都会のオーラがある。大阪は不思議な不思議なオーラがある。大阪に注目して日本を考え直す。かつて「天下の台所」と呼ばれながらも、幕府のもとに不遇の地位に甘んじてきた」と指摘する。B6判216頁、15000円、0268382767。

『古代官道の謎』山元六合夫著 退職後10年「阪南史友会」を主宰しながら「南海道」をテーマに研究してきた。和泉、大和、紀伊、山城、そして摂津の国々にも目を向けながらまとめた。A5変形判157頁、私家版。



『特攻花 荒毛反魂草』北川榮一著 「特攻花」という花のあることを知った著者は、散華した彼らの遺骨代わりにアクリルの中に封入したら、と考えた。「靖国の桜」は神社が参拝者に記念品として頒布している。ユニークな提案の書である。A5判36頁、800円、03584154535。

『古代官道の謎』山元六合夫著 退職後10年「阪南史友会」を主宰しながら「南海道」をテーマに研究してきた。和泉、大和、紀伊、山城、そして摂津の国々にも目を向けながらまとめた。A5変形判157頁、私家版。

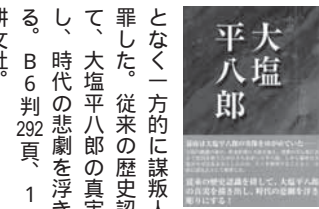
『凍野の兵卒 シベリア抑留の軌跡』松岡美樹著 昭和元年愛媛県松前生まれ、松山商業卒。在学中から胸部疾患。20年3月虎林の930部隊(輜重)入隊。鶏寧兵器廠で非常呼集、冷山駅で武装解除、投降。この間中隊は多くの在留邦人を放棄、我々は食物なく



『凍野の兵卒』松岡美樹著 昭和元年愛媛県松前生まれ、松山商業卒。在学中から胸部疾患。20年3月虎林の930部隊(輜重)入隊。鶏寧兵器廠で非常呼集、冷山駅で武装解除、投降。この間中隊は多くの在留邦人を放棄、我々は食物なく



『田舎の子どもと戦争』三重児童文学の会 員、B6判94頁840円、文芸社。



『大塩平八郎』三重児童文学の会 員、B6判94頁840円、文芸社。

『自分史入門・第2版』中里富美雄著 市井の人々の感動的な自分史の文章を紹介しながら、自分史の書き方を説明している。第2版となつてゐるのは初版が東京書籍で絶版になつたので、一部を加筆し再版したため。B6判240頁1470円、菁柿堂。

た感動を紹介している。「自分史とは、自分という一人の人間がこの世に生き、どういう生き方をして今日に至つたかという歴史である」としている。B6判240頁1470円、菁柿堂。

『つもれば』終刊「つもり日」「つもれ火」。過ぎ去りし時の埋もれた日々に思いをはせたり、またそれらを火種にして現代を生きようとする私たち同人の願いを込めて表題にした。とある。「随筆きょうと」から別れ、約20人が1996年8月創刊号を出した。そして昨年10月、第36・37合併号をもって終刊とした。「終刊の意向は、同人会

の席で全員から期せずして出たことで、自分たちの手で火をつけ、燃やし続けた炎を、まだ余力のあるうちに、自分たちの手できれいに消そうということになりました」と梅原一恵さんは記している。なお全冊を新風書房の「ブックギャラー」上六へ寄贈された。

『松岡浩の人生道場（前・後編）』ゴキブリキャップなどで知られる榊タニサケの「こころの小冊子」の一つ。他に『人生の達人たち』『全社員が嬉々として出社する人生劇場』『夢工場物語』。益はなくても、意味がある。など多数あり。

著者は昭和19年岐阜県池田町の生まれ。大垣商業卒後イビデン（株）を経てスーパーマツオカヤを経営。その後、谷酒茂雄氏と榊タニサケを設立。現在取締役会長。街の発明家谷酒氏との出会いが面白い。興味を持ち訪ねて行き、ゴキブリ殺虫剤を商品化、「日本一」をテーマに飛躍する物語。0585 45 8555。



『松岡浩の人生道場』

著者は昭和19年岐阜県池田町の生まれ。大垣商業卒後イビデン（株）を経てスーパーマツオカヤを経営。その後、谷酒茂雄氏と榊タニサケを設立。現在取締役会長。街の発明家谷酒氏との出会いが面白い。興味を持ち訪ねて行き、ゴキブリ殺虫剤を商品化、「日本一」をテーマに飛躍する物語。0585 45 8555。

アウト、校正などはこれくらい。問題はいかに良い編集者と出会うかである。初心者にとつてそれは不可能に近い。しかし方法はある。それは出版した人から風評を聞き出すことである。さてどうするか。類似本はたくさんあるが、そこまで書いている本に出会つたことがないのは残念。B6判256頁、1575円。近未来社。

『身辺清爽 一五〇句』石川ただし 平成6年古稀を記念し上梓された。ホトトギス投句が国内100、海外50となる。題名は深川正一郎先生の命名。俳句のきつけは慶大時代郷里出身の深川

先生に出会つたから。愛媛は俳句王国であり多くの才人を生んでいる。著者は川之江から上京、慶大卒業後大阪で稼業の印刷業を継ぐ。多くの出会いが句を高めている。B6判192頁、6394円。1181（富士精版印刷）。他に『続々身辺清爽 三〇〇句』も。

『放送の世界に生きて』金子俊彦著 毎日放送で「ダイヒングクイズ」「アップダウンクイズ」などの番組制作に携わつてきた著者が語る放送業界と自らの軌跡。夢を追いかけ夢の中を走つてきた男の物語風自分史。井上ひさし他さまざまな人との出会いが舞台裏とともに描かれているのが良い。A5判264頁、1500円、風詠社。

『夕映えの海』松本俊枝著 『樹齢80年の詩』柿の木坂の四季』に次ぐ3冊目のエッセイ。武蔵野音楽学校音楽科卒、日本テレビ、子どもの番組ディレクター、宝仙学園短大保育学科音楽講師を経て現在に至る。『音楽から絵画へ』の自分史も。「木の葉の乱舞」「大みそか」「水中歩行」「冬の花たち」など身辺の出来事をつましく切り取つて原稿用紙のキャンパスに描き上げている。B6判110頁、本の森。

『詩集・父の涙と足跡と』足達三好著 昭和23年兵庫県日高町に生まれ高卒で県警へ。父も警察官でその背中を見て育つ。タイトルはそこから浮かんだ。悩み多き青年時代、詩という表現形式に出会い、自分の言葉を持つ。神戸新聞文芸欄を道場に投稿で腕を磨く。科捜研所長、高砂警察署署長を経て近畿管区警察局長。平成16年、私家版出版。22年『第2詩集・新しい一歩のため』の詩出版。078 97 49053。

『すみよし21』第3号 住中21期生同人誌 一昨年出版した『8・15 傘寿の追憶 戦時下の中学生』の反響が大きく、そこから派生して文集を発行している。編集担当の金子俊彦さんは「有志の同人誌ですが、これがそれぞれの自分史作りのきっかけになれば」と言っている。B5判204頁、非売品。

『ふるぼりず』渡邊静江著 短文風自分史としても言うのだから、いや、詩風自分史ともいえる。細切れの部分を取り取つて表現することで自分を浮かび上がらせている。昭和4年米子市で誕生、鳥取師範を終え県下の小学校へ23年間奉職された。米子文学サロン開催。A5判370頁、0859 27 1203。

『父の涙と足跡と』の詩出版。078 97 49053。

『すみよし21』第3号 住中21期生同人誌 一昨年出版した『8・15 傘寿の追憶 戦時下の中学生』の反響が大きく、そこから派生して文集を発行している。編集担当の金子俊彦さんは「有志の同人誌ですが、これがそれぞれの自分史作りのきっかけになれば」と言っている。B5判204頁、非売品。

『ふるぼりず』渡邊静江著 短文風自分史としても言うのだから、いや、詩風自分史ともいえる。細切れの部分を取り取つて表現することで自分を浮かび上がらせている。昭和4年米子市で誕生、鳥取師範を終え県下の小学校へ23年間奉職された。米子文学サロン開催。A5判370頁、0859 27 1203。

『ふるぼりず』渡邊静江著 短文風自分史としても言うのだから、いや、詩風自分史ともいえる。細切れの部分を取り取つて表現することで自分を浮かび上がらせている。昭和4年米子市で誕生、鳥取師範を終え県下の小学校へ23年間奉職された。米子文学サロン開催。A5判370頁、0859 27 1203。

『自分表現』44秋号 昨年の漢字は「暑」であった。同誌の課題も「今年の猛暑を省みて」である。「猛暑を涼しく過ごす方法」、「生かされる命と朝顔の花」、「夏の日の思い出」、「琵琶湖の南へ」などのエッセイが並ぶ。他にもさまざまな人生が描かれている。075 872 3563. 渡辺美智子主宰。

『野口正路自選詩集』 敵機は火を噴き、ゆつくりと舞い落ちた。戦時少年の目は、この国の犯した不条理を自撃した。それから65年。人生遍歴期の果てにたどり着いた魂の救いを描く。昭和7



『あつかるいオッサンの感奮ノート』 上口敦弘著 民間企業と女子大でさまざまな人とめぐり会う。「出会いは「ふれあい」、たすけあい」から得た感奮を明るく軽妙なタッチでつづった84話のエッセイ集。B6判216頁、1050円、近代文芸社。



『絶対の世界に生きる・自然と人間と神仏』 加藤光雄著 宗教の本のようなタイトルだがさあらず、



『思い出深き旅路』 西橋ハル著 大正10年ハルビンで生まれる。父は福岡柳川の出身で新聞社の特派員であった。道裡区地段街の日本尋常高等小学校を経て富士高等女学校の1期生として入学するが2年のとき父の内

年東京で生れる。A5判128頁2415円、北溟社。
『回想録 大学卒業後50年の春 昭和24年三田会』 卒業後50年の春の母校の入学式に招待されたのを記念し、回想録を編んだ当時の同期生に思い出を寄せてもらい写真も寄せ合せて懐かしい記念アルバムになった。B5判90頁。06 6394 181。
『アルバム シベリア鎮魂の旅』 鳥取県第3次シベリア暴参団 鳥取県出身者の遺族ら28人が平成5年8月訪口、チタ州



に思い出を寄せてもらい写真も寄せ合せて懐かしい記念アルバムになった。B5判90頁。06 6394 181。
『アルバム シベリア鎮魂の旅』 鳥取県第3次シベリア暴参団 鳥取県出身者の遺族ら28人が平成5年8月訪口、チタ州

『敗残の記』 作成、後、中央公論から出版。本書は合冊の私家版。A5判302頁。朝日新聞出版サービス。
『初陣の記・敗残の記』 藤岡明義著 大正4年枚方市生まれ、大阪商科大卒、昭和15年応召。歩兵37連隊、19年比島派遣水口島警備、22年收容所で書いた回想メモを持ち帰り27年ガリ版で『敗残の記』作成、後、中央公論から出版。本書は合冊の私家版。A5判302頁。朝日新聞出版サービス。

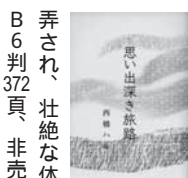


『元気に百歳』 「元気に百歳」クラブの出版である。年1回の発行だが、今号はゲスト13人を含め61編が集まり過去最高という。巻頭言には「新老人の会」主宰・日野原先生の「爽やかに生きろ」がある。やはり健康問題を含めた高齢期の生き方が多く、戦記や旅行記もある。A5判320頁1260円、夢工房0463 82 7652。



『元気に百歳』 「元気に百歳」クラブの出版である。年1回の発行だが、今号はゲスト13人を含め61編が集まり過去最高という。巻頭言には「新老人の会」主宰・日野原先生の「爽やかに生きろ」がある。やはり健康問題を含めた高齢期の生き方が多く、戦記や旅行記もある。A5判320頁1260円、夢工房0463 82 7652。

『季節のアルバム』 林達津子著 副題に「美術展を巡って」とあるようにさまざまな展覧会を鑑賞している。
この眼力はどうのようにして身につけたのだろうか。それを表現する文章術も備えている。普通は、絵を写真で入れて解説や批評をするが、文字だけでそれをやっているのに驚く。A5判320頁。私家版。



22歳で結婚、北朝鮮で暮らす。しかし戦争に翻弄され、壮絶な体験を重ねる。B6判372頁、非売品。

『知覧 六月三日の邂逅』 西山慶尚著



著者は昭和15年愛媛県生まれ。東京教育大理学部を終え郷里の高校に勤務、定年退職の2年前に文芸同人誌「海峡」に参加、小説を発表している。戦争にこだわるのは長兄がマリアナ沖海戦で戦死していることによる。B6判338頁、1680円、文芸社。

『無双舎』 無双舎が個人出版の広告。また自費出版の新聞広告が目についた。東京渋谷区千駄ヶ谷の無双舎である。「原稿募集・新しい書き手に門戸を開く」の広告を22年9月12日の読売新聞大阪朝刊10面(読書面)に掲載した。3つの特徴として、書店で流通している一般書籍と遜色のない出来栄、著者様に満足いただくパートナーシップを大切にします。あなたの「本を完成させる具体的な企画を提案」とうたっている。出稿はこの1回だけのようでは見かけない。



『ミツノヤ』 本誌絵本作家の五味さんが途中まで画いた絵

『ミツノヤ』 本誌絵本作家の五味さんが途中まで画いた絵に読者が自分なりの絵を画き、自分の作品にしていくというユニークな本が人気を呼んでいる。17カ国で翻訳され360万部が売れているというから驚く。まささらな画用紙にヒントがちよつとあるので画き易いのだそう。A4判363頁2333円+税、ブロンズ新社。

「利根川のほとり」 21・22号

利根町自身史と随筆の会が文集作る

12人のメンバーが、講師石塚幸造先生の元で文集作りに励んでいる。内容は紀行、回想、随筆などで、タイトルを拾うと、私の諸国漫遊記・会社人間・緑の大地に生きて・国連海洋法条約締結会議に参加して・歌劇な

どで、著者の人柄が浮かぶ。代表の中村允さんは「はじめに」で生誕の地韓国を尋ねたことにふれ、ダムの水底に沈んでしまったところもあったが、親を重んじる「長幼の序」をこのほか感じさせられ、スシンとするものを感した、とのこと。最後に石塚先生の一人ずつへの短評が、温かな目で励ましている。

「スローライフ」 福井久著
「みんなと話をすると同じように軽い気持ちで書けばよい」と自らの人生記録を普段着のままに書く文章グループ「ふだん記」の実践によって綴られた第

二の人生の記録。ふだん記に連載した「織田信長会見記」との二部構成でその情景が浮かび上がってくる。
「夢を叶える3大資源」 鈴木民二著 夢が大きく花開いた人

映画

『キヤタピラー』を鑑賞して

新風書房代表 福山 琢 磨

この暑かった夏の終わりに十三の「七劇」で『キヤタピラー』を観賞し、脳天に鉄槌をくらった思いだった。よくあそこまで戦争の究極を抉り出したものだ。

ひなびた農村から、若者・黒川久蔵（大西信満）が支那事変に召集されていく。当時、どこでも見られた出征風景だ。配属された部隊は、ゲリラを掃討するため農村を取り囲み、食料を奪い、女を犯し、家を焼き尽くす。特に女を犯す久蔵の野獣のような狂人ぶりがクローズアップされる。この場面が途中で何

度か映し出され、久蔵が呪われ苦しめられているのがわかる。戦場で四肢を毛ぎ取られ、だるまになった上、言語と聴覚も失った夫・久蔵が、妻の黒川シゲ子（寺島しのぶ）の元へ返されてくる。黒川家の久蔵が寝かされた部屋には、天皇皇后両陛下

傷痍軍人を「軍神」に仕立てて戦争をえぐり出す

昭和15年の回想場面、久蔵が出征する時の勇ましく凛々しい姿が映し出される。キリツと軍服を着込み、村人たちに敬礼している。「黒川久蔵、われらが神の国、大日本帝国のため、立派に戦って参ります」。村人

下には人間の内側を源流とする三つの資源が躍動していた。感謝・感動・喜びの心である。これらを夢のエネルギーに変え、しかも天の後押しを味方につけた人たちの物語を紹介している。天分開花シリーズの第一作。
『私の航海日誌』 杉村守茂著 大正11年、徳島県吉野川の山峡・川俣の生まれ。県立麻植中学から神戸高等商船学校へ入学ここで鍛えられる。昭和19年海軍少尉に任官、広島鉄道局勤務で開博釜連絡船3等航海士となる。戦後アパツ



戦後アパツ

子号2等航海士、昌慶丸、岬岐丸1等航海士。35年には宇高連絡船船長へ。まさに海の男の一代記である。A5判146頁、非売品。

寺田一清先生の本

「幼児は漢字の天才」
「幼児期の言語教育こそが人間の知能を決定する働きをし、能力を大きく飛躍させる鍵となる」と言う信念に基づいて普及と実践を生涯かけて貫いた教育者・石井勲先生の漢字教育のすすめ。幼児教育の重要性、とりわけ「この時期における言葉の

教育の重要性」に着目された。

「神性の開発」

正しい姿勢によって自己の感性を高め、自己体認を深めるための方法が岡田虎二郎先生の静坐法である。体質改善、人間開発、果ては人間救済の悲願を達成すべく徹底した調査研究と研鑽によって編み出された静坐法を解説している。

「本の渡り鳥」

ただ今、準備中

1月中には旅立たせませす

の「万歳、万歳」の声が続く。

新婚時代がどれくらい続いたのか分らないが1年くらい続いたろうか。シゲ子を強引に組み伏せ「跡継ぎも産めないくせに、この役立たずが！」と殴りつける場面がある。これでどんな夫婦関係であったかが想像できる。

天気の良い日は時々久蔵をリヤカーに乗せて散歩に出る。軍神さん、軍神さん」と村の人たちはあがめ、シゲ子を世話女房とたたえる。体裁はつくろっているものの二人の間に夫婦愛など芽生えず、ただ隙間風が吹き抜けている。家に帰り、軍服を脱がせて床に寝かすと、またもや嘔み付いてくる。「私だって今日は疲れているのよ」と拒否するが、それでも放さない。遂に感情が破裂し、「軍神さんに食べさせてあげて」ともらった卵を久蔵の顔にたたきつける。3個4個と全部だ。

「なんなのよ、軍神様、軍神様って！ 軍神様ってなんなのよ！」

グチャグチャの久蔵の顔を見て我に返るシゲ子が「こんな姿で帰されて……」と泣きながら久蔵の顔をぬぐう。ちよっぴり妻としての感情が見えたかに思っただが、農村の労働の厳しさが、そんなおセンチは吹っ飛ばす。ある日、裸体を自分の本能を満たすため、なめまわす久蔵にシゲ子はたまらず「まだです

か」と顔を背けて言っている。

久蔵がえんぴつを口にくわえて必死に文字を書いている場面があるが、「やりたい タノム」とあり、それしか頭にないのかとシゲ子は愕然とする。

久蔵は四肢を失ったことより、言葉を奪われたことのほうが大きいと私は思った。

言葉があれば、感情を伝え合うこともでき、戦場で断ち切られた久蔵の心を修復する糸口にもなっただろう。言葉と聴覚を破壊することにより、二人を元の人間に返らせない仕掛けをして、戦争の残酷さをえぐりだし、訴えようとした作者の真意が見えてくるように感じた。

シゲ子は久蔵

の弟忠との会話

で「…ねえ、あの人が、手も足も無くなったのって、お国のためだったのよね？」と言う。自分に言い聞かせようとしているのだ。だが人間らしさのかけらも再生しない久蔵への悪感情は段々高ぶってゆく。床の間に飾られた御真影、新聞、勲章を見



『キャタピラー』のパンフレット。「シゲ子」を演じる寺島しのぶと、後ろで敬礼しているのは出征のときの「久蔵」大西信満。

ている久蔵に対し、シゲ子は何を思ったか、声を張り上げて軍歌を歌いだす。「見よ 東海のそらあけて 旭日高く輝けば 天地の精気 濔刺と……」。国家への精一杯の抗議であろう。顔は涙にぬれていた。やがてシゲ子は国家権力の飾り物を床に

「いもむしころころ ふねこぎぎっちゃん……」ラストシーンは終戦の日である。一人で家から離れた畑を耕しているシゲ子の前に村の変人「クマ」が「万歳、万歳、戦争終わった」と言っておどろきながら現れる。

家では久蔵

が床を抜け出す。一点を見つめ庭の池に向かつて芋虫のように這ってゆく。印象的な場面だ。パンフレットに「キャタピラー」とは芋虫のこととあった。シゲ子は畑でクマと一緒に万歳をしている。場面は切り替わりカメラは池にうつぶせになって浮かんでいる久蔵を映し出して終わる。

戦争に詳しい

知人に「衝撃を受けた」とあらましを話すと言下に言った。それはおかしい。そんな役立たずの人間を、当時の軍医は生かして帰すはずがない」と言うのだ。私は虚を突かれて二の句がつけなかった。しかしよく考えてみると、それは戦場における真実の

姿かもしれない。ある衛生兵の戦記に同じような場面があったのを思い出した。

「不利な戦で、一度に数十人の傷兵が野戦病院に運び込まれた。一刻を争うが軍医は一人しかいない。軽傷者は後回しで、重傷者のうち助けられそうな者から治療した。軍医の判断が総てであり、見放された者はお終いであった。我々にはどうすることもできなかった」

非情だが、極限の状況ではそれが正しいと思う。

シゲ子が叫んだ「なんなのよ、軍神様、軍神様って！ 軍神様ってなんなのよ！」が胸に刺さっている。生かされた久蔵も、ダルマになった夫を帰されたシゲ子も被害者である。若松監督は主人公のシゲ子に、戦場で廃人になった夫久蔵に少尉の軍服を着せ「三種の神器」を与え、軍神」として帰らせることで、戦争を告発している。

農村の厳しい仕事の中で、久蔵を世話する時間はわずしかない。いらだち欲求不満の鬼になる久蔵に、シゲ子の感情も荒々しくなっていく。夫婦であっても、戦場で四肢をもち取られたうえ、頭もおかしくなった男が、言葉や聴覚まで失ったらどうなるか。人間性を取り戻すことは不可能だろう。互いの溝が広がってゆくさまを、今一歩きちっと描いて欲しかった。

献本図書紹介

- 「四女 あや」
 (大阪) 春野 陽子
 子猫のあやと四人の子供が織り成す一家のお話。
 「松岡浩の人生道場」
 (岐阜) 松岡 浩
 経営と人生の先駆者松岡氏の「生きるヒント」集。
 「50年目の証言」
 (佐賀) 石戸 敏治
 苦痛と絶望の中で背負った戦争体験を語り継ぐ。
 「道のり(その1)」
 (埼玉) 松澤 亀男
 七十余年間の泣き笑いな人生を描いた自伝史。
 「韓国語と私」
 (東京) 朴 校 熙
 韓国語との出会いの歴史を日韓国語で記した書。
 「紫苑花」
 (岩手) 佐藤 博藏
 生還を信じ毎日欠かさず書き続けた闘病日誌記録。
 「新藤兼人監督に贈る」
 (兵庫) 安藤 信義
 日本映画最高齢の現役監督新藤兼人氏に贈る文集。
 「わたつみのこえ130」
 (東京) 日本戦没学生記念会
 恒久平和の実現を推進するわたつみ会の機関誌。
 「朝のこない夜はない」
 (東京) 岩見 隆夫
 迷走を続ける政治の根源に鋭く斬り込む渾身のコラム集。
- 「元気で楽しく明るい学校」
 (北海道) 服部 仲範
 子ども達との対話・ふれあいを行った実践記録。
 「近聞遠見」
 (東京) 岩見 隆夫
 舞台裏で見た政治家たちの様々な姿を捉えた。
 「金竹小とその時代」
 (東京) 岩見 隆夫
 変革期を迎えた政界の水面下を描く政治コラム集。
 「政界再編とキーマンたち」
 (東京) 岩見 隆夫
 自民党分裂から村山内閣誕生までの激動の二年間。「自民党に言いたいこと」が山ほどある。
 (東京) 岩見 隆夫
 政治関係者約二百人の人間模様を鮮やかに描く。「演説力」
 (東京) 岩見 隆夫
 混乱する日本の背筋を伸ばす熱と誠の言論戦。
 「蒼き自伝史 甲府工業戦中・戦後の記録」
 (東京) 長門 保明
 戦中戦後の動乱期五年間を回想した自伝史文集。
 「8・15傘寿の追憶 戦時下の中学生」
 (大阪) 大阪府立旧制住吉中学21期生
 大阪空襲被害体験や勤労動員に明け暮れた太平洋戦争中の中学生生活を描く。
- 「チャーチル会米子50周年記念画集」
 (鳥取) チャーチル会米子
 絵を描く愉しみを通じ日常を豊かにするチャーチル会の記念画集。
 「夢をみるころ」
 (大阪) あざみエージェント
 日常生活の徒然なることを描いた句集。
 「銀色の楽園 久保田紺句集」
 (大阪) あざみエージェント
 透明感あふれる百句集。
 「実録遙かなる回想」
 (鹿児島) 高崎 弥生
 数奇な運命に翻弄されながら懸命に昭和を生きた。「句集 薔薇窓」
 (神奈川) 齋川 玲奈
 自然と美しさと日々の生活が表現された句集。
 「わたしの鳥取」
 (大阪) 木元 健二
 鳥取に暮らす人たちの志、人生を振り返ります。「KANSAI夜景100選」
 (大阪) 関西経済同友会
 伝統の深遠さ、新しい力が生み出す躍動感が渾然一体となった写真の数々。
 「蝸の糞で頭へ上がる前編」
 (北海道) 須貝 光夫
 様々な教師像を描いたフィクション。
- 「木地師俳人 筒井寸風」
 (大阪) 橋本 巖
 幕末の俳人寸風を独特の視点で書き上げた。「流亡の記」
 (岡山) 山口 八郎
 当時の日本人の崇高な精神が窺える貴重な記録。「博士と助手 第一集」
 (栃木) 石積 美幸
 大場博士と美人秘書ソニアが織り成すストーリー。「エラブカ座」
 (東京) 鹿兒島 能子
 多様な演芸で人々を魅了するエラブカ座の記録。「よりそって二人」
 (静岡) 富田美穂子
 優しく包容力のある夫と力を合わせて生きた人生。「虹の中へ」 53号
 (石川) 財団法人石川県教育文化財団
 自分の生き様を素直に自分の筆で綴る自伝史集。「小さな自伝史 思いでつづり第4号」
 (群馬) ぐんま自伝史の会
 生きる証を綴った文集。「2010年の景気見通し」
 (東京) 田村 正勝
 日本経済の調査・研究から景気の動向を考える。「銀のスプーン」 30集
 (兵庫) 三宅 啓弘
 平和をテーマに多くの作品が寄せられた文集。
- 「わたしたちの童謡唱歌」
 (静岡) 古橋 迪夫
 童謡唱歌に親しんで情操豊かな人間に、という願いを込めた作曲集。「創 2009年2月号」
 (東京) 創出版・創 編集部
 出版界の徹底研究を特集にした月刊誌。「従軍の回想」
 (福岡) 福原 富蔵
 戦前戦後の波瀾万丈な青春の足跡を記した一冊。「孫たちへの手紙」 10集
 (岩手) 岩手県老人クラブ連合会
 激動の戦争時代を歩んだ世代が孫たちに語る手記。「縁あって食満の豆腐屋」
 (大阪) おおもとひろし
 人の縁によってもたらされた豆腐屋の物語。「いちねんせい」の枝
 (愛知) すがい市民文化財団
 様々なデビューを飾った頃にまつわる作品集。「デス・パレー」 死の谷よりの生還
 (大分) 大森 幸子
 壮絶な人生の「コマを描いた敗走の記」。「つりふね草にのって」
 (京都) 河端美佐子
 身近にあふれる幸せを描く静かな日常の物語。

献本くださる方へお願い できるだけ2冊お送りください。 保存用と閲覧用です。 新聞などで紹介されたものは、そのコピーを添えてください。 プライバシーにふれる内容があり、他人に見られたくない場合は、「禁閲覧」と朱書きしてください。

ボランティアを募っています

翻訳

電子ブックで世界へ

1面に発表しましたように『孫たちへの証言・原爆特別号』を英語版の電子ブックとして制作し、ネットで世界に配信することになりました。英訳に翻訳して下さるボランティア(薄謝進呈)の方を募っています。ご協力いただける方は至急ご連絡ください。

06 6768 4600

E-mail info@shimpu.co.jp

原爆特別号をネット配信

あなたの体験・ご応募ください

『孫たちへの証言』第24集

『テーマ』これだけは次代へ伝えたい《私の戦時体験》

第24集のテーマが標題のように決まりました。

分類は次の4部門です。

- ・第一部 国内での体験
- ・第二部 国外での体験
- ・第三部 亡き人たちの証し
- ・第四部 戦後、それからの私たち

内容

戦争体験
ドキュメンタリーな体験(戦争に関連する闘病・事故・災害など)

戦争などで犠牲になった肉親のこと
戦後の苦境をどう乗り切ったか



大正13年、長野県で生まれる。旧制徳島中学出身、復員後「新日本学院」で少年感化事業に4年4カ月にわた

り従事。昭和27年2月から生保業界紙「保経社」東京駐在として業界紙

上原 健次様

辛口コラム『点滴』9冊を出版

計報

杉浦みな子様 自分史風エッセイ3冊を上梓



大正11年、大阪生まれ。府立富田林高女卒、東京銀行に勤務するも1年後右足骨折で退社。昭和49年、姉の死で義兄と結婚、52年夫と死別。53年、朝日新聞「ひととき」欄に投

稿が採用され、ひととき会会員となり、エッセイを書くことが生きがいとなる。房短歌会、大阪ベンクラブ会員。『過ぎざりし日々』、『こころ思うままに』、『有難うという言葉と共に生きる』の3冊を上梓。(11月8日、88歳)

原稿の締切は
平成23年3月31日

字数 1600字以内
記入 氏名・年齢・住所・電話番号を明記のこと(匿名は不可)

締切 平成23年3月末日まで
入選 70/80編を単行本として出版(8月) 謝礼 採用分には第24集を一冊贈呈。
発表 本誌「マイ・ヒストリー」夏号
販売 8月中旬、全国の主な書店で。無い場合は書店で申し込むと入手できる。

写真は採用決定後、提出していただきます。原稿の返却はいたしません。



「京都自費出版フェア」開催
市勤業館で 北斗プリント社
京都で自費出版に取り組み(株)北斗プリント社が「第8回京都自費出版フェア」を12月4・5の2日間、京都市勤業館で開催した。自社で制作された本数十点のほか、他社の分も展示し、著者にも来てもらって見学者と対話する「自費出版交流会」も行った。その他「日本自費出版文化賞」の受賞作品も展示した。(写真)

青えんぴつ

ipadは今や手放せなくなっている。今まで鞆に入れて持ち歩いてきた書類なども取り込める。お客様の原稿もこれに入れておけばどこでも校正などできる。出張の重い鞆から開放される。新しい所へはナビが案内してくれ、良きパートナー。右ひざが痛くて正座できなかったが、我が故郷鳥取の境港で作った松葉ガニから抽出の「グルコサミン」を服用して20日間でなんとか座れるようになった。今で二カ月目、痛さもやわらしてきた。(福山琢磨)

出身の高校で、来年(2011年)を「喜寿記念」と銘打ち、これをもって同期の同窓会に終止符を打つことになった。長寿を授かった私たちにも、人生に一つの区切りの時期がやってきたのだと思う。これを機に、私自身の自分史を作るつもり。媒体は紙(本)とCD、あるいはHDDとなるだろう。(長野景昌)
毎年言われる異常気象。昨年も秋は短く日本の四季が曖昧になっているように思う。身近にある小さな四季を感じ、感性を磨いていきたい。(上野真悟)
また新しい年を迎える。毎年「今年こそ」と何かを期待している。自らその何かを切り開かねば……と四十路を迎える年に改めて思う。(福山珠紀)